

性的マイノリティに関わる健康問題 – 「性の多様性に関する意識調査」に対する一考察

近畿大学総合社会学部 准教授 佐藤 望

1. はじめに

多様な性のあり方に対する理解は、国、自治体、企業、教育現場などで啓発活動が推進されることにより、徐々に深まりつつある。例えば、国家レベルでは2023年6月に「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」が公布・施行された（国立印刷局，2023）ことに併行して、内閣府が関連した問題に関するウェブサイトの運用を開始し、国民に対し幅広く情報提供を行っている（内閣府，2023）。また、企業レベルでの例としては、一般社団法人 work with Pride が企業に対して、性的マイノリティが働きやすい労働環境整備に取り組むための情報や機会を提供するためのウェブサイトを2012年に開設している（work with Pride, 2012）ことなどが挙げられる。教育現場では生徒指導提要（文部科学省，2023）に示された、性的マイノリティの支援体制に関する指針に沿った取り組みが進められている。加えて、教職員や就学者に対する研修や教育も多く実施されている。

このように様々なレベルで性の多様性に関する理解を深める取り組みが推進されているものの、未だ性的マイノリティに対する偏見やいじめなどにより、性的マイノリティにおける心身の安全が脅かされる事態が発生している。教育現場での問題に着目すると、性的マイノリティに対するいじめは不登校や自傷行為につながる事が報告されている（例えば、日高，2018）。また、全米の大学生を対象とした調査では、異性愛者と比較すると、性的マイノリティでは抑うつ、不安、摂食障害、自傷行為、希死念慮の比率が高いことが報告されている（Lipson et al., 2019）。したがって、教育機関は、性的マイノリティである就学者が心身の健康を損ねることなく、安心して学校生活を送ることができる教育環境を整えることが重要である。そのためには、性的マイノリティの健康にネガティブな影響を及ぼす要因を明らかにすると共に、性的マイノリティに対するネガティブな感情を軽減させ得る要因を探る必要があると考えられる。したがって、本稿では近畿大学大学生を対象とした調査結果に基づき、性的マイノリティにおける健康状態、性自認・性的指向に関わるネガティブな経験とメンタルヘルスとの関連について考察することを第1の目的とする。また、性的マイノリティに対するネガティブな感情を軽減し得る要因について、調査結果に照らし考察することを第2の目的とする。

本稿における調査結果の分析・考察の方針として、統計的検定は施さず、記述統計の結果に基づき考察を行うこととした。その理由は性的マジョリティ群（シスジェンダーで異性愛者）と他の群とのサンプル数に多大な差があり、仮説検定結果の信頼性が担保されないと判断されるためである。また、本稿では、平森他（2021）に基き、性自認・性的指向のカテゴリーを以下のように分類した。シスジェンダーは性自認が出生時の性別と一致する者、レズビアン（以下Lと記す）は女性が女性のみ性愛感情を抱く同性愛者、ゲイ（以下Gと記す）は男性が男性のみ性愛感情を抱く同性愛者、バイセクシュアル（以下Bと記す）は男性・女性どちらにも性愛感情を抱く両性愛者、アセクシュアル（以下Aと記す）は誰に対しても性愛感情を抱かない無性愛者、トランスジェンダーは性自認が出生時に割り当てられた性別と異なるとらえている、あるいは違和感がある

者、とした。また、性自認として、性別を決めたくない・決めていない者も少なからず存在するため、このカテゴリーをノンバイナリーとして分析対象に含めた。

2. 性自認・性的指向と健康状態

表 1 は、調査票の問 8 にて現在の主観的健康状態を 5 件法でたずねた結果を性自認・性的指向のカテゴリー別に示したものである。値が高いほど健康状態がよくないことを示している。シスジェンダーで LGBA、トランスジェンダー群で僅かに値が高くなっているものの、選択肢の midpoint (3:ふつう) よりも低値である。したがって、本設問への回答結果からは各カテゴリー間の主観的健康状態に顕著な差は認められないと考えられる。

表 1 性自認・性的指向別の主観的健康度

	度数	平均値	標準偏差
シスジェンダーで異性愛者	1345	1.8	0.96
シスジェンダーでLGBA	62	2.3	1.07
トランスジェンダー(ノンバイナリーを含む)	26	2.2	0.95
決めたくない・決めていない	100	1.9	0.96

表 2 から表 5 は性自認・性的指向のカテゴリー別に、性的指向などに対し不快な冗談やからかいを被った経験の有無 (問 2 (ウ) (1)) と、メンタルヘルスの不調に関連する心理的症状・行動の有無 (問 3) をたずねた結果を組合わせて示したものである。

性的指向などに対し不快な冗談やからかいを被った経験があり、かつ、自尊心の低下を反映する「生きる価値がないと感じた」(表 2)、自死念慮 (表 3)、自死念慮・自死をほのめかす行動 (表 4)、自殺未遂 (表 5) のそれぞれで「ある」と回答した組合わせの内訳に着目すると、小・中学校 (6 ~ 15 歳頃)、高校 (16 ~ 18 歳頃)、大学入学後のいずれの段階においてもトランスジェンダーでの割合が他のカテゴリーと比較して高くなっている。各カテゴリーのサンプル数が大きく異なる点、不快な冗談やからかいを被った経験については有無のみをたずねており、被った時期や頻度に関する回答は求めている点、性的指向などに対する不快な冗談やからかいを被ったこととメンタルヘルスの悪化を反映する心理的症状や行動の割合が高いこととの間の因果関係は不明である点を考慮すると、結果の解釈には慎重を期すべきであるが、日高 (2018) の調査ではトランスジェンダーにおいていじめの被害率が高く、かつ不登校や自傷行為の経験率も他のセクシュアリティと比較して高いことが報告されており、本調査の結果でも同様の傾向が窺える。

また、同様の内訳について、シスジェンダーで異性愛者の回答結果に着目すると、自尊心の低下 (表 2) 自死念慮 (表 3)、自死念慮・自死をほのめかす行動 (表 4) では、小・中学校 (6 ~ 15 歳頃)、高校 (16 ~ 18 歳頃)、大学入学後のいずれの段階においても 10% を上回っている。また、自殺未遂 (表 5) では、大学入学後を除き、数名が「ある」と回答している。上述の理由により、慎重に結果を解釈すべきであるが、性自認・性的指向の違い如何に関わらず、性的指向などに対する不快な冗談やからかいは被害を受けた者を自殺未遂に至らしめる深刻な事態をもたらす危険性も考えられる。したがって、この結果については因果関係を検証し得る質問を設定した上で詳細な検討が求められる。

表2 性的指向などに対する不快な冗談やからかいを被った経験×自尊感情

		「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」といったことにかかわる、不快な冗談、からかいを自分が受けたことがある													
		小・中学校、6～15歳頃				高校、16～18歳頃				大学入学後					
		ある	ない	無回答	合計	ある	ない	無回答	合計	ある	ない	無回答	合計		
生きる価値がないと感じた	ある	シスジェンダーで同性愛者	度数	25	139	6	170	32	218	4	254	8	33	3	44
			%	14.7	81.8	3.5	100.0	12.6	85.8	1.6	100.0	18.2	75.0	6.8	100.0
		シスジェンダーでLGBA	度数	3	19	2	24	2	20	1	23	0	8	0	8
			%	12.5	79.2	8.3	100.0	8.7	87.0	4.3	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0
		トランスジェンダー(ノンバイナリーを含む)	度数	4	11	0	15	6	10	0	16	2	3	0	5
		%	26.7	73.3	0.0	100.0	37.5	62.5	0.0	100.0	40.0	60.0	0.0	100.0	
	決めたくない・決めていない	度数	4	21	0	25	3	26	0	29	1	8	0	9	
		%	16.0	84.0	0.0	100.0	10.3	89.7	0.0	100.0	11.1	88.9	0.0	100.0	
	合計	度数	36	190	8	234	43	274	5	322	11	52	3	66	
		%	15.4	81.2	3.4	100.0	13.4	85.1	1.6	100.0	16.7	78.8	4.5	100.0	
ない	シスジェンダーで同性愛者	度数	70	1063	27	1160	63	984	28	1075	87	1170	28	1285	
		%	6.0	91.6	2.3	100.0	5.9	91.5	2.6	100.0	6.8	91.1	2.2	100.0	
	シスジェンダーでLGBA	度数	4	32	1	37	5	30	2	37	7	43	3	53	
		%	10.8	86.5	2.7	100.0	13.5	81.1	5.4	100.0	13.2	81.1	5.7	100.0	
	トランスジェンダー(ノンバイナリーを含む)	度数	3	9	0	12	1	10	0	11	5	17	0	22	
	%	25.0	75.0	0.0	100.0	9.1	90.9	0.0	100.0	22.7	77.3	0.0	100.0		
決めたくない・決めていない	度数	6	67	1	74	7	62	1	70	9	78	1	88		
	%	8.1	90.5	1.4	100.0	10.0	88.6	1.4	100.0	10.2	88.6	1.1	100.0		
合計	度数	83	1171	29	1283	76	1086	31	1193	108	1308	32	1448		
	%	6.5	91.3	2.3	100.0	6.4	91.0	2.6	100.0	7.5	90.3	2.2	100.0		

表3 性的指向などに対する不快な冗談やからかいを被った経験×自死念慮

		「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」といったことにかかわる、不快な冗談、からかいを自分が受けたことがある													
		小・中学校、6～15歳頃				高校、16～18歳頃				大学入学後					
		ある	ない	無回答	合計	ある	ない	無回答	合計	ある	ない	無回答	合計		
死ねたらと思うた、または自死の可能性を考えた	ある	シスジェンダーで同性愛者	度数	20	134	5	159	26	169	6	201	10	83	3	96
			%	12.6	84.3	3.1	100.0	12.9	84.1	3.0	100.0	10.4	86.5	3.1	100.0
		シスジェンダーでLGBA	度数	3	15	1	19	2	20	1	23	1	15	0	16
			%	15.8	78.9	5.3	100.0	8.7	87.0	4.3	100.0	6.3	93.8	0.0	100.0
		トランスジェンダー(ノンバイナリーを含む)	度数	4	13	0	17	6	11	0	17	2	5	0	7
		%	23.5	76.5	0.0	100.0	35.3	64.7	0.0	100.0	28.6	71.4	0.0	100.0	
	決めたくない・決めていない	度数	2	22	0	24	3	24	0	27	2	11	0	13	
		%	8.3	91.7	0.0	100.0	11.1	88.9	0.0	100.0	15.4	84.6	0.0	100.0	
	合計	度数	29	184	6	219	37	224	7	268	15	114	3	132	
		%	13.2	84.0	2.7	100.0	13.8	83.6	2.6	100.0	11.4	86.4	2.3	100.0	
ない	シスジェンダーで同性愛者	度数	75	1068	28	1171	69	1036	26	1131	85	1119	27	1231	
		%	6.4	91.2	2.4	100.0	6.1	91.6	2.3	100.0	6.9	90.9	2.2	100.0	
	シスジェンダーでLGBA	度数	4	36	2	42	5	30	2	37	6	36	2	44	
		%	9.5	85.7	4.8	100.0	13.5	81.1	5.4	100.0	13.6	81.8	4.5	100.0	
	トランスジェンダー(ノンバイナリーを含む)	度数	3	7	0	10	1	9	0	10	5	14	0	19	
	%	30.0	70.0	0.0	100.0	10.0	90.0	0.0	100.0	26.3	73.7	0.0	100.0		
決めたくない・決めていない	度数	7	66	1	74	7	64	1	72	8	75	1	84		
	%	9.5	89.2	1.4	100.0	9.7	88.9	1.4	100.0	9.5	89.3	1.2	100.0		
合計	度数	89	1177	31	1297	82	1139	29	1250	104	1244	30	1378		
	%	6.9	90.7	2.4	100.0	6.6	91.1	2.3	100.0	7.5	90.3	2.2	100.0		

表 4 性的指向などに対する不快な冗談やからかいを被った経験×自死念慮・自死をほのめかす行動

		「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」といったことにかかわる、不快な冗談、からかいを自分が受けたことがある													
		小・中学校、6～15歳頃				高校、16～18歳頃				大学入学後					
		ある	ない	無回答	合計	ある	ない	無回答	合計	ある	ない	無回答	合計		
自死について考えたり、自死をほのめかす行動をとったりした	ある	シスジェンダーで同性愛者	度数	13	75	3	91	13	85	5	103	10	83	3	96
			%	14.3	82.4	3.3	100.0	12.6	82.5	4.9	100.0	10.4	86.5	3.1	100.0
		シスジェンダーでLGBA	度数	2	12	0	14	0	14	0	14	1	15	0	16
			%	14.3	85.7	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	6.3	93.8	0.0	100.0
		トランスジェンダー(ノンバイナリーを含む)	度数	4	9	0	13	6	9	0	15	2	5	0	7
	%	30.8	69.2	0.0	100.0	40.0	60.0	0.0	100.0	28.6	71.4	0.0	100.0		
	決めたくない・決めていない	度数	0	13	0	13	1	18	0	19	2	11	0	13	
	%	0.0	100.0	0.0	100.0	5.3	94.7	0.0	100.0	15.4	84.6	0.0	100.0		
	合計	度数	19	109	3	131	20	126	5	151	15	114	3	132	
	%	14.5	83.2	2.3	100.0	13.2	83.4	3.3	100.0	11.4	86.4	2.3	100.0		
ない	シスジェンダーで同性愛者	度数	82	1128	30	1240	82	1115	28	1225	85	1119	27	1231	
		%	6.6	91.0	2.4	100.0	6.7	91.0	2.3	100.0	6.9	90.9	2.2	100.0	
	シスジェンダーでLGBA	度数	5	39	3	47	7	36	3	46	6	36	2	44	
		%	10.6	83.0	6.4	100.0	15.2	78.3	6.5	100.0	13.6	81.8	4.5	100.0	
	トランスジェンダー(ノンバイナリーを含む)	度数	3	11	0	14	1	11	0	12	5	14	0	19	
	%	21.4	78.6	0.0	100.0	8.3	91.7	0.0	100.0	26.3	73.7	0.0	100.0		
	決めたくない・決めていない	度数	9	75	1	85	9	70	1	80	8	75	1	84	
	%	10.6	88.2	1.2	100.0	11.3	87.5	1.3	100.0	9.5	89.3	1.2	100.0		
	合計	度数	99	1253	34	1386	99	1232	32	1363	104	1244	30	1378	
	%	7.1	90.4	2.5	100.0	7.3	90.4	2.3	100.0	7.5	90.3	2.2	100.0		

表 5 性的指向などに対する不快な冗談やからかいを被った経験×自殺未遂

		「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」といったことにかかわる、不快な冗談、からかいを自分が受けたことがある													
		小・中学校、6～15歳頃				高校、16～18歳頃				大学入学後					
		ある	ない	無回答	合計	ある	ない	無回答	合計	ある	ない	無回答	合計		
自死を思った	ある	シスジェンダーで同性愛者	度数	5	13	2	20	1	16	2	19	0	1	0	1
			%	25.0	65.0	10.0	100.0	5.3	84.2	10.5	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0
		シスジェンダーでLGBA	度数	1	2	0	3	0	6	0	6	0	1	0	1
			%	33.3	66.7	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0
		トランスジェンダー(ノンバイナリーを含む)	度数	3	3	0	6	2	3	0	5	1	1	0	2
	%	50.0	50.0	0.0	100.0	40.0	60.0	0.0	100.0	50.0	50.0	0.0	100.0		
	決めたくない・決めていない	度数	0	4	0	4	0	3	0	3	0	0	0	0	
	%	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	合計	度数	9	22	2	33	3	28	2	33	1	3	0	4	
	%	27.3	66.7	6.1	100.0	9.1	84.8	6.1	100.0	25.0	75.0	0.0	100.0		
ない	シスジェンダーで同性愛者	度数	89	1192	31	1312	94	1186	31	1311	95	1200	31	1326	
		%	6.8	90.9	2.4	100.0	7.2	90.5	2.4	100.0	7.2	90.5	2.3	100.0	
	シスジェンダーでLGBA	度数	6	49	3	58	7	44	3	54	7	50	3	60	
		%	10.3	84.5	5.2	100.0	13.0	81.5	5.6	100.0	11.7	83.3	5.0	100.0	
	トランスジェンダー(ノンバイナリーを含む)	度数	4	17	0	21	5	16	0	21	6	18	0	24	
	%	19.0	81.0	0.0	100.0	23.8	76.2	0.0	100.0	25.0	75.0	0.0	100.0		
	決めたくない・決めていない	度数	9	85	1	95	10	84	1	95	10	86	1	97	
	%	9.5	89.5	1.1	100.0	10.5	88.4	1.1	100.0	10.3	88.7	1.0	100.0		
	合計	度数	108	1343	35	1486	116	1330	35	1481	118	1354	35	1507	
	%	7.3	90.4	2.4	100.0	7.8	89.8	2.4	100.0	7.8	89.8	2.3	100.0		

表 6 から表 9 は性自認・性的指向のカテゴリー別に、性的指向などに関する事で身体的暴力を被った経験（問 2（エ）（1））と、メンタルヘルスの不調に関連する心理的症状・行動の有無（問 3）をたずねた結果を組合わせて示したものである。

性的指向などに関する事で身体的暴力を被った経験があり、かつ、自尊心の低下を反映する「生きる価値がないと感じた」（表 6）、自死念慮（表 7）、自死念慮・自死をほのめかす行動（表 8）、自殺未遂（表 6）のそれぞれで「ある」と回答した組合わせの内訳に着目すると、「生きる価値がないと感じた」（表 6）では小・中学校（6～15歳頃）、高校（16～18歳頃）、大学入学後

のいずれの段階においてもトランスジェンダーでの割合が他のカテゴリーと比較して高くなっている。また、自死念慮（表7）、自死念慮・自死をほのめかす行動（表8）では小・中学校（6～15歳頃）、高校（16～18歳頃）において、トランスジェンダーでの割合が他のカテゴリーと比較して僅かに高くなっている。ただし、結果の解釈には先述したとおり、慎重を期すべきである。

これらの結果を表2から表4に示した結果と比較すると、全体的に値は低い。すなわち、性的指向などに関することで身体的暴力に至るケースは、不快な冗談やからかいによる被害と比べて少ない。しかしながら、発生頻度や割合が僅かであっても看過できないことであるため、被害の未然防止に対する的確な配慮が必要である。

表6 性的指向などに関することで身体的暴力を被った経験×自尊感情

		「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」といったことで ふるわれる身体的暴力を自分が受けたことがある													
		小・中学校、6～15歳頃				高校、16～18歳頃				大学入学後					
		ある	ない	無回答	合計	ある	ない	無回答	合計	ある	ない	無回答	合計		
生きる 価値が ないと 感じた	ある	スジェンダーで異性愛者	度数	6	158	6	170	5	244	5	254	0	136	3	139
			%	3.5	92.9	3.5	100.0	2.0	96.1	2.0	100.0	0.0	97.8	2.2	100.0
		スジェンダーでLGBA	度数	0	22	2	24	0	22	1	23	0	18	1	19
			%	0.0	91.7	8.3	100.0	0.0	95.7	4.3	100.0	0.0	94.7	5.3	100.0
		トランスジェンダー (ノンバイナリーを含む)	度数	2	13	0	15	2	14	0	16	1	11	0	12
		%	13.3	86.7	0.0	100.0	12.5	87.5	0.0	100.0	8.3	91.7	0.0	100.0	
	決めたくない・決めていない	度数	1	24	0	25	1	28	0	29	0	22	0	22	
		%	4.0	96.0	0.0	100.0	3.4	96.6	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	
	合計	度数	9	217	8	234	8	308	6	322	1	187	4	192	
		%	3.8	92.7	3.4	100.0	2.5	95.7	1.9	100.0	0.5	97.4	2.1	100.0	
ない	スジェンダーで異性愛者	度数	13	1121	26	1160	14	1035	26	1075	19	1141	26	1186	
		%	1.1	96.6	2.2	100.0	1.3	96.3	2.4	100.0	1.6	96.2	2.2	100.0	
	スジェンダーでLGBA	度数	0	36	1	37	0	35	2	37	0	40	2	42	
		%	0.0	97.3	2.7	100.0	0.0	94.6	5.4	100.0	0.0	95.2	4.8	100.0	
	トランスジェンダー (ノンバイナリーを含む)	度数	0	12	0	12	0	11	0	11	1	14	0	15	
	%	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	6.7	93.3	0.0	100.0		
決めたくない・決めていない	度数	1	72	1	74	1	68	1	70	2	72	1	75		
	%	1.4	97.3	1.4	100.0	1.4	97.1	1.4	100.0	2.7	96.0	1.3	100.0		
合計	度数	14	1241	28	1283	15	1149	29	1193	22	1267	29	1318		
	%	1.1	96.7	2.2	100.0	1.3	96.3	2.4	100.0	1.7	96.1	2.2	100.0		

表7 性的指向などに関することで身体的暴力を被った経験×自死念慮

		「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」といったことで ふるわれる身体的暴力を自分が受けたことがある													
		小・中学校、6～15歳頃				高校、16～18歳頃				大学入学後					
		ある	ない	無回答	合計	ある	ない	無回答	合計	ある	ない	無回答	合計		
死ねたら と思った、 または 自死の 可能性を 考えた	ある	スジェンダーで異性愛者	度数	5	149	5	159	3	191	7	201	1	92	3	96
			%	3.1	93.7	3.1	100.0	1.5	95.0	3.5	100.0	1.0	95.8	3.1	100.0
		スジェンダーでLGBA	度数	0	18	1	19	0	22	1	23	0	16	0	16
			%	0.0	94.7	5.3	100.0	0.0	95.7	4.3	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0
		トランスジェンダー (ノンバイナリーを含む)	度数	1	16	0	17	1	16	0	17	0	7	0	7
		%	5.9	94.1	0.0	100.0	5.9	94.1	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	
	決めたくない・決めていない	度数	0	24	0	24	1	26	0	27	1	12	0	13	
		%	0.0	100.0	0.0	100.0	3.7	96.3	0.0	100.0	7.7	92.3	0.0	100.0	
	合計	度数	6	207	6	219	5	255	8	268	2	127	3	132	
		%	2.7	94.5	2.7	100.0	1.9	95.1	3.0	100.0	1.5	96.2	2.3	100.0	
ない	スジェンダーで異性愛者	度数	14	1130	27	1171	16	1091	24	1131	18	1187	26	1231	
		%	1.2	96.5	2.3	100.0	1.4	96.5	2.1	100.0	1.5	96.4	2.1	100.0	
	スジェンダーでLGBA	度数	0	40	2	42	1	70	1	72	0	42	2	44	
		%	0.0	95.2	4.8	100.0	1.4	97.2	1.4	100.0	0.0	95.5	4.5	100.0	
	トランスジェンダー (ノンバイナリーを含む)	度数	1	9	0	10	0	35	2	37	2	17	0	19	
	%	10.0	90.0	0.0	100.0	0.0	94.6	5.4	100.0	10.5	89.5	0.0	100.0		
決めたくない・決めていない	度数	2	71	1	74	1	9	0	10	1	82	1	84		
	%	2.7	95.9	1.4	100.0	10.0	90.0	0.0	100.0	1.2	97.6	1.2	100.0		
合計	度数	17	1250	30	1297	18	1205	27	1250	21	1328	29	1378		
	%	1.3	96.4	2.3	100.0	1.4	96.4	2.2	100.0	1.5	96.4	2.1	100.0		

表 8 性的指向などに関することで身体的暴力を被った経験×自死念慮・自死をほのめかす行動

		「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」といったことで ふるわれる身体的暴力を自分が受けたことがある												
		小・中学校、6～15歳頃				高校、16～18歳頃				大学入学後				
		ある	ない	無回答	合計	ある	ない	無回答	合計	ある	ない	無回答	合計	
ある	シスジェンダーで同性愛者	度数	4	84	3	91	3	95	5	103	2	39	3	44
		%	4.4	92.3	3.3	100.0	2.9	92.2	4.9	100.0	4.5	88.6	6.8	100.0
	シスジェンダーでLGBA	度数	0	14	0	14	0	14	0	14	0	8	0	8
		%	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	トランスジェンダー (ノンバイナリーを含む)	度数	1	12	0	13	1	14	0	15	0	5	0	5
	%	7.7	92.3	0.0	100.0	6.7	93.3	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	
	決めたくない・決めていない	度数	0	13	0	13	0	19	0	19	0	9	0	9
		%	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	合計	度数	5	123	3	131	4	142	5	151	2	61	3	66
		%	3.8	93.9	2.3	100.0	2.6	94.0	3.3	100.0	3.0	92.4	4.5	100.0
ない	シスジェンダーで同性愛者	度数	15	1196	29	1240	16	1182	27	1225	17	1241	27	1285
		%	1.2	96.5	2.3	100.0	1.3	96.5	2.2	100.0	1.3	96.6	2.1	100.0
	シスジェンダーでLGBA	度数	0	44	3	47	0	43	3	46	0	50	3	53
		%	0.0	93.6	6.4	100.0	0.0	93.5	6.5	100.0	0.0	94.3	5.7	100.0
	トランスジェンダー (ノンバイナリーを含む)	度数	1	13	0	14	1	11	0	12	2	20	0	22
	%	7.1	92.9	0.0	100.0	8.3	91.7	0.0	100.0	9.1	90.9	0.0	100.0	
	決めたくない・決めていない	度数	2	82	1	85	2	77	1	80	2	85	1	88
		%	2.4	96.5	1.2	100.0	2.5	96.3	1.3	100.0	2.3	96.6	1.1	100.0
	合計	度数	18	1335	33	1386	19	1313	31	1363	21	1396	31	1448
		%	1.3	96.3	2.4	100.0	1.4	96.3	2.3	100.0	1.5	96.4	2.1	100.0

表 9 性的指向などに関することで身体的暴力を被った経験×自殺未遂

		「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」といったことでふるわれる 身体的暴力を自分が受けたことがある												
		小・中学校、6～15歳頃				高校、16～18歳頃				大学入学後				
		ある	ない	無回答	合計	ある	ない	無回答	合計	ある	ない	無回答	合計	
ある	シスジェンダーで同性愛者	度数	1	17	2	20	0	17	2	19	0	1	0	1
		%	5.0	85.0	10.0	100.0	0.0	89.5	10.5	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	シスジェンダーでLGBA	度数	0	3	0	3	0	6	0	6	0	1	0	1
		%	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	トランスジェンダー (ノンバイナリーを含む)	度数	0	6	0	6	0	5	0	5	0	2	0	2
	%	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	
	決めたくない・決めていない	度数	0	4	0	4	0	3	0	3	0	0	0	0
		%	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	合計	度数	1	30	2	33	0	31	2	33	0	4	0	4
		%	3.0	90.9	6.1	100.0	0.0	93.9	6.1	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0
ない	シスジェンダーで同性愛者	度数	18	1264	30	1312	19	1262	30	1311	19	1277	30	1326
		%	1.4	96.3	2.3	100.0	1.4	96.3	2.3	100.0	1.4	96.3	2.3	100.0
	シスジェンダーでLGBA	度数	0	55	3	58	0	51	3	54	0	57	3	60
		%	0.0	94.8	5.2	100.0	0.0	94.4	5.6	100.0	0.0	95.0	5.0	100.0
	トランスジェンダー (ノンバイナリーを含む)	度数	2	19	0	21	2	19	0	21	2	22	0	24
	%	9.5	90.5	0.0	100.0	9.5	90.5	0.0	100.0	8.3	91.7	0.0	100.0	
	決めたくない・決めていない	度数	2	92	1	95	2	92	1	95	2	94	1	97
		%	2.1	96.8	1.1	100.0	2.1	96.8	1.1	100.0	2.1	96.9	1.0	100.0
	合計	度数	22	1430	34	1486	23	1424	34	1481	23	1450	34	1507
		%	1.48	96.23	2.29	100.00	1.55	96.15	2.30	100.00	1.53	96.22	2.26	100.00

3. 性的マイノリティのメンタルヘルス悪化を防ぐための方策に関わる要因

性的マイノリティに対する嫌悪感や抵抗感といったネガティブな感情を低減することは、性的マイノリティのメンタルヘルス不調防止において重要である。和田（2008）によると、同性愛についての知識が多いほど、また、同性愛者との接触が多いほど、同性愛、同性愛者に対する嫌悪・拒否的な態度は弱いことが報告されている。ここでは、和田（2008）における知識に相当するものとして、性愛、性愛の多様性、性同一性障害、トランスジェンダー、性別違和、性別の多様性に関する学習経験（問1（イ）（ウ））と接触経験（問4、問5）を取り上げ、これらの経験とセクシュアルマイノリティに対する嫌悪感・抵抗感との関連について調査結果に照らして考察する。

表10は性に関わる事柄に対する不快感や嫌悪感について、4件法でたずねた結果である。値が高いほど不快感や嫌悪感が強いことを示すよう評定値に処理を施した。顕著に高値を示した項目は認められないが、同性どうしの性行為に対する嫌悪感に関する項目が他の項目と比較して僅かに高値を示している。

これら11項目のうち、異性愛に関する項目（（エ）、（サ））を除外した9項目に対し、因子分析（最尤法、プロマックス回転）を施したところ、1因子構造が確認された。同性愛に対する不快感・嫌悪感を測定する尺度として用いるために尺度の信頼性を確認した上で（Cronbach's $\alpha = .92$ ）、9項目の平均値を算出し、学校の授業で性について学んだ経験の有無間で同性愛に対する不快感・嫌悪感を比較した。

表11は同性愛・両性愛、性愛の多様性に関する学習経験の有無間、表12は性同一性障害、トランスジェンダー、性別違和、性別の多様性に関する学習経験の有無間での比較結果を示している。いずれの学習内容についても、学習経験がない人数に比べある人数の方が顕著に多い。また、学習内容間で比較すると、性同一性障害、トランスジェンダー、性別違和、性別の多様性について学んだ経験がある人数の方が同性愛・両性愛、性愛の多様性について学んだ人数よりも多い。学習経験の有無と不快感・嫌悪感との関連については、いずれの学習内容においても認められず、平均値は小数点以下第2位から生じる差異に留まり、ほぼ同値となっていた。

表10 性に関わる事柄に対する不快感・嫌悪感

	度数	平均値	標準偏差
問16(ア) 女性のような男性をみると、不快になる	1663	1.5	0.75
問16(イ) 男性のような女性をみると、不快になる	1663	1.3	0.62
問16(ウ) 男性か女性かわからないような人をみると、不快になる	1662	1.3	0.64
問16(エ) 街なかで男女が手をつないでいるのをみたら、不快になる	1661	1.4	0.75
問16(オ) 街なかで男性どうしが手をつないでいるのをみたら、不快になる	1663	1.5	0.78
問16(カ) 街なかで女性どうしが手をつないでいるのをみたら、不快になる	1663	1.3	0.60
問16(キ) 男性が男性に恋愛感情を抱くことに、嫌悪感を覚える	1663	1.4	0.73
問16(ク) 女性が女性に恋愛感情を抱くことに、嫌悪感を覚える	1661	1.4	0.64
問16(ケ) 男性どうしの性行為に、嫌悪感を覚える	1661	1.9	1.08
問16(コ) 女性どうしの性行為に、嫌悪感を覚える	1660	1.6	0.92
問16(サ) 男性と女性の間の性行為に、嫌悪感を覚える	1660	1.3	0.57

表 11 同性愛・両性愛、性愛の多様性に関する
学習経験×不快感・嫌悪感

	度数	平均値	標準偏差
学んだことがある	1242	1.5	0.59
学んだことがない	361	1.5	0.61

表 12 性同一性障害、トランスジェンダー、性別違和、
性別の多様性に関する学習経験×不快感・嫌悪感

	度数	平均値	標準偏差
学んだことがある	1270	1.5	0.59
学んだことがない	330	1.5	0.61

表 13 は同性愛・両性愛、性愛の多様性に関する学習経験の有無別に家族、友人、近隣の住民が同性愛者であった場合や性別変更者であった場合を想定した際の抵抗感を示したものである。抵抗感 は 4 件法で回答を求め、値が高いほど抵抗感が強いことを示している。

学習経験がない人数に比べ、ある人数の方が顕著に多い。学習経験の有無間で抵抗感を比較すると、複数の項目において学習経験がない人の方が 0.1 ポイント上回っているものの、概ね同値となっていた。想定する対象者間で値を比較すると、同性愛者であることを想定した場合（項目（ア）から（オ））、きょうだい、自分の子どもにおける値が学校の同級生や近隣の住民における値よりも高くなっている。また、性別変更者であることを想定した場合にも同様の傾向が認められる。このことから、対象者との関係性によって抵抗感は異なり、家族に当事者がいることを想定した場合に、抵抗感が高くなる傾向が窺われる。

表 14 は性同一性障害、トランスジェンダー、性別違和、性別の多様性に関する学習経験の有無別に家族、友人、近隣の住民が同性愛者であった場合や性別変更者であった場合を想定した際の抵抗感を示したものである。全体的に表 13 に示した値と概ね同等の値となっている。したがって、表 13 で認められた傾向に加え、学習内容の違いによる抵抗感に差異は認められないことが示された。

表 13 同性愛・両性愛、性愛の多様性に関する学習経験×身近な他者が同性愛者であった場合・性別変更者であった場合を想定した際の抵抗感

	学んだ経験	度数	平均値	標準偏差
問14(ア) 近所の人が同性愛者だったら	ある	1242	1.4	0.73
	ない	361	1.4	0.82
問14(イ) 学校の同級生が同性愛者だったら	ある	1242	1.5	0.81
	ない	361	1.6	0.88
問14(ウ) きょうだいが同性愛者だったら	ある	1241	2.0	1.08
	ない	361	2.0	1.10
問14(エ) 自分の子どもが同性愛者だったら	ある	1242	2.1	1.08
	ない	361	2.1	1.14
問14(オ) 仲の良い友人が同性愛者だったら	ある	1242	1.7	0.98
	ない	360	1.8	1.05
問14(カ) 近所の人が性別を変えた人だったら	ある	1242	1.4	0.73
	ない	361	1.4	0.81
問14(キ) 学校の同級生が性別を変えた人だったら	ある	1242	1.5	0.81
	ない	361	1.6	0.93
問14(ク) きょうだいが性別を変えた人だったら	ある	1240	1.9	1.10
	ない	361	2.0	1.15
問14(ケ) 自分の子どもが性別を変えた人だったら	ある	1241	2.0	1.10
	ない	360	2.1	1.15
問14(コ) 仲の良い友人が性別を変えた人だったら	ある	1242	1.7	0.99
	ない	361	1.8	1.05

表 14 性同一性障害、トランスジェンダー、性別違和、性別の多様性に関する学習経験×身近な他者が同性愛者であった場合・性別変更者であった場合を想定した際の抵抗感

	学んだ経験	度数	平均値	標準偏差
問14(ア) 近所の人が同性愛者だったら	ある	1270	1.4	0.73
	ない	330	1.4	0.85
問14(イ) 学校の同級生が同性愛者だったら	ある	1270	1.5	0.81
	ない	330	1.6	0.90
問14(ウ) きょうだいが同性愛者だったら	ある	1269	2.0	1.09
	ない	330	2.0	1.09
問14(エ) 自分の子どもが同性愛者だったら	ある	1270	2.0	1.09
	ない	330	2.1	1.12
問14(オ) 仲の良い友人が同性愛者だったら	ある	1270	1.7	0.98
	ない	329	1.8	1.04
問14(カ) 近所の人が性別を変えた人だったら	ある	1270	1.4	0.73
	ない	330	1.4	0.82
問14(キ) 学校の同級生が性別を変えた人だったら	ある	1270	1.5	0.82
	ない	330	1.6	0.92
問14(ク) きょうだいが性別を変えた人だったら	ある	1269	1.9	1.10
	ない	329	2.0	1.14
問14(ケ) 自分の子どもが性別を変えた人だったら	ある	1270	2.0	1.11
	ない	328	2.1	1.12
問14(コ) 仲の良い友人が性別を変えた人だったら	ある	1270	1.7	1.00
	ない	330	1.8	1.02

表 15 は同性愛・両性愛、性愛の多様性に関する学習経験の有無別に、また、表 16 は性同一性障害、トランスジェンダー、性別違和、性別の多様性に関する学習経験の有無別に、仲の良い友人が同性愛者であること・性別変更をすることがわかった場合を想定した際の抵抗感を示している。いずれの学習内容においても、学習経験の有無間で抵抗感の値は概ね同等となっている。学習内容間

の比較においても同様の結果が示されている。想定する友人の性別間で比較すると、仲の良い友人が女性の同性愛者であることがわかったことを想定する場合と比較して、男性の同性愛者であることがわかった場合を想定した場合に抵抗感が僅かに高くなることが示された。すなわち、当事者の性別により抵抗感に差異が生じる可能性が示唆される。

表 11 から表 16 に示した結果を総括すると、性の多様性に関わる学習経験は性的マイノリティに対するネガティブな感情を軽減することに効果的である点は確認されなかったことになる。しかしながら、同性愛に関する知識が多いほど同性愛者を嫌悪・拒否しないといった知見（和田、2008）も認められる。したがって、これらの関連性について継続的に検討を進めることが望まれる。今回の調査では、学んだ経験の有無のみを問うたが、今後、検討を進めていくに当たり、具体的な学習内容、授業形態（講義、実習など）の詳細についても回答を求め、就学者には性的マイノリティに関わるどのような事柄をいかに学んでもらうと知識の定着に効果的であるのか、また、定着した知識をどのように活用すれば性的マイノリティのメンタルヘルス向上にむすびつくのかといった点について模索することも必要であろう。

表 15 同性愛・両性愛、性愛の多様性に関する学習経験×仲の良い友人が同性愛者であること・性別変更をすることが判明した場合を想定した際の抵抗感

	学んだ経験	度数	平均値	標準偏差
問15(ア) 仲の良い男性の友人が同性愛者だとわかったら抵抗がある	ある	1242	1.8	0.99
	ない	361	1.9	1.02
問15(イ) 仲の良い女性の友人が同性愛者だとわかったら抵抗がある	ある	1242	1.6	0.87
	ない	361	1.7	0.93
問15(ウ) 仲の良い友人が性別を男性から女性に変えたら抵抗がある	ある	1242	1.8	0.98
	ない	361	1.9	1.02
問15(エ) 仲の良い友人が性別を女性から男性に変えたら抵抗がある	ある	1242	1.8	0.94
	ない	361	1.8	0.99

表 16 性同一性障害、トランスジェンダー、性別違和、性別の多様性に関する学習経験×仲の良い友人が同性愛者であること・性別変更をすることが判明した場合を想定した際の抵抗感

	学んだ経験	度数	平均値	標準偏差
問15(ア) 仲の良い男性の友人が同性愛者だとわかったら抵抗がある	ある	1270	1.8	0.99
	ない	330	1.9	1.02
問15(イ) 仲の良い女性の友人が同性愛者だとわかったら抵抗がある	ある	1270	1.6	0.88
	ない	330	1.6	0.89
問15(ウ) 仲の良い友人が性別を男性から女性に変えたら抵抗がある	ある	1270	1.8	0.99
	ない	330	1.9	1.01
問15(エ) 仲の良い友人が性別を女性から男性に変えたら抵抗がある	ある	1270	1.8	0.95
	ない	330	1.8	0.97

表 17 は身近な関係にある他者が同性愛者であることの認知（問 4）、および、性別変更者、あるいは性別の変更を考えている人の認知（問 5）の有無別に性的マイノリティに対する嫌悪感・不快感を示したものである。身近な存在の他者が同性愛者であることを認知している場合において、嫌悪感・不快感がやや軽減される傾向が窺われる。

今回の調査では、クラスメート、近い友人、親せき、家族を一括して接触経験を問うている。

しかし、各個人との関係性や親密さの程度は異なるため、これらを一括せず個別に接触体験をたずねることにより、接触体験による嫌悪感・不快感の低減効果がより明確に示されるものと考えられる。

表 17 性的マイノリティの接触経験×嫌悪感・不快感

		度数	平均値	標準偏差
問4 クラスメイトや、近しい友人、親せきや家族に同性愛者がいる	いる	246	1.3	0.56
	いない	554	1.6	0.63
問5 クラスメイトや、近しい友人、親せきや家族に性別を変えた、あるいはそうしようと考えている人がいる	いる	58	1.5	0.75
	いない	915	1.5	0.61

4. まとめ

本稿では近畿大学大学生を対象とした調査結果に基づき、性自認・性的指向に関わるネガティブな経験とメンタルヘルスとの関連について、また、性的マイノリティに対するネガティブな感情を軽減し得る要因についても考察を施した。これらの考察を通して、限定的ではあるが、大学生の性的マイノリティが抱えるメンタルヘルス上の問題について考慮すべき点が確認された。したがって、本稿において指摘した調査上の問題を改善し、継続的に調査を実施することにより、性的マイノリティのメンタルヘルスに関わる問題の明確化とその解消に向けた取り組みを慎重に進めていく必要がある。

今回の調査は長期に渡るコロナ禍で希薄となっていた人間関係が、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行によって密な状態へと急激に変化していく時期に実施された。人間関係が密になることにより、人間関係に纏わるトラブルも増加することが危惧される。教育現場では多様な性を背景とする学生が少なからず存在することを念頭に置き、性的マイノリティ故に被る人間関係のトラブルを未然に防ぐための環境整備が急務であろう。

本稿の前半では性的マイノリティにおける健康状態を把握するために、主として性的マジョリティ（本稿ではシスジェンダーの異性愛者）と性的マイノリティとの間でデータを比較するという枠組みに沿って回答の分析・考察を行った。しかしながら、性的マジョリティにカテゴライズされた場合、心身に不調をきたしていたとしても、その母数の多さ故に、カテゴリー内の割合としては低値となり、看過される可能性が懸念される。いかなる性自認・性的指向の背景を有していても、心身ともに健康な状態で学校生活を送ることができる環境を整備していくためには、性的マイノリティの健康問題に主眼を置いた調査を実施する場合であっても、多様な性を構成する一員である性的マジョリティの回答結果も精査し、問題の把握に努める視点が必要であろう。

引用文献

- 日高 庸晴 (2018). LGBTs のいじめ被害・不登校・自傷行為の経験率 全国インターネット調査の結果から 現代性教育研究ジャーナル, 89, 1-7.
- 平森 大規・釜野 さおり・郭 水林・小西 優実 (訳) (2021). 性的指向と性自認のあり方を日本の量的調査でいかにとらえるか—大阪市民調査に向けた準備調査における項目の検討と本調査

の結果— 人口問題研究, 77, 45-67.

国立印刷局 (2023). 性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律 官報, 号外第 132 号, 18-19. <https://www8.cao.go.jp/rikaizoshin/law/pdf/jobun.pdf> (2023 年 12 月 1 日アクセス)

Lipson, S. K., Raifman, J., Abelson, S., & Reisner, L. (2019). Gender minority mental health in the U.S.: Results of a national survey on college campuses. *American Journal of Preventive Medicine*, 57, 293-301.

文部科学省 (2023). 生徒指導提要 https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699_-201-1.pdf (2023 年 12 月 6 日アクセス)

内閣府 (2023). 性的指向・ジェンダーアイデンティティ理解増進ウェブサイト <https://www8.cao.go.jp/rikaizoshinindex.html> (2023 年 12 月 1 日アクセス)

和田 実 (2008). 同性愛に対する態度の性差：同性愛についての知識，同性愛者との接触，およびジェンダー・タイプとの関連 *思春期学*, 26, 322-334.

work with Pride(2012). work with Pride ウェブサイト <https://workwithpride.jp/>(2023 年 11 月 28 日アクセス)